

令和 7 年度秋季陸奥湾養殖ホタテガイ実態調査結果について

1 結果公表 令和 7 年 12 月 22 日（月） 午前 11 時 00 分～

※令和 7 年度秋季陸奥湾養殖ホタテガイ実態調査結果報告会

2 調査目的等

（1）調査目的

陸奥湾のホタテガイ垂下養殖の実態を把握し、へい死対策及び生産計画等の指針とする。

（2）調査主体

陸奥湾内各漁業協同組合（協力：むつ湾漁業振興会、関係市町村、水産総合研究所、県）

（3）調査期間及び対象

①現地調査（成育状況等）

ア 調査期間：令和 7 年 1 月 10 日～20 日

イ 対象貝：新貝（令和 6 年産貝） 及び 稚貝（令和 7 年産貝）

ウ 対象者：10 漁協の 45 名（全養殖漁業者の 5 %相当）

②聞き取り調査（保有枚数等）

ア 基準日：令和 7 年 1 月 1 日

イ 対象貝：成貝（令和 5 年産貝）、新貝及び稚貝

ウ 対象者：10 漁協の全養殖漁業者（826 経営体）

3 陸奥湾全体の状況

（1）成育状況

区分		へい死率	異常貝率	殻長	全重量	軟体部重量
新貝 (R6 産貝)	R7	93.3%	6.2%	7.7cm	53.6g	13.4g
	平年	16.0%	7.9%	8.6cm	74.5g	25.6g
稚貝（未分散） (R7 産貝)	R7	80.4%	2.7%	1.6cm	0.6g	—
	平年	13.4%	3.0%	2.5cm	1.9g	—

※平年：S60～R6 平均

（2）保有枚数

①調査翌年の成貝（親貝）

区分	保有枚数①	確保の目安②	割合①/②	備考
新貝（R6 産貝） 成貝（R5 産貝）	677 万枚	1 億 4,000 万枚	4.8%	

②調査翌年の半成貝・新貝

区分	保有枚数①	過去 10 年平均②	割合①/②	備考
稚貝（R7 産貝）	3 億 193 万枚	14 億 2,247 万枚	21.2%	

（3）概況

①親貝

へい死率は平年を大きく上回り、異常貝率は平年並み。殻長、全重量及び軟体部重量は平年を下回った。

②未分散稚貝

へい死率は平年を大きく上回り、異常貝率は平年並み。殻長及び全重量は平年を下回った。

③保有枚数

親貝となる成貝と新貝の保有枚数は677万枚で、目安となる1億4,000万枚の4.8%。来年の半成貝や新貝となる稚貝の保有枚数は3億193万枚で過去10年平均の21.2%となった。

(4) 高水温の影響等

○異常高水温の影響により大量へい死が起こった平成22年、令和5年、令和6年と比較すると、新貝及び未分散稚貝のへい死率はいずれの年も上回り、昭和60年以降最も高かった。

○新貝の軟体部重量及び未分散稚貝の全重量はいずれの年も下回り、昭和60年以降最も低かった。

○このような大量へい死と成長不良の要因は、今年の高水温期間が過去最長であったことが挙げられる。

4 青森市の状況

(1) へい死率

①新貝

新貝のへい死率は、青森市漁協が94.9%、後潟漁協が95.3%となり、令和5年及び令和6年調査と比較して高くなつた。

<新貝>※調査前年産

(単位：%)

項目	R7 調査	R6 調査	参考		
			R5 調査	R4 調査	R3 調査
青森市漁協	94.9	24.1	83.4	18.1	—
後潟漁協	95.3	21.7	26.0	7.7	19.0

<稚貝（未分散）>※調査年産

(単位：%)

項目	R7 調査	R6 調査	参考		
			R5 調査	R4 調査	R3 調査
青森市漁協	98.1	70.6	90.3	3.3	14.4
後潟漁協	95.5	28.7	41.3	2.3	5.2

<地区別へい死率>

(単位：%)

項目	新貝（R6年産貝）			稚貝（R7年産貝）※分散済			稚貝（R7年産貝）※未分散		
	R7	R6	R7-R6	R7	R6	R7-R6	R7	R6	R7-R6
後潟	95.3	21.7	73.6	0.0	0	0.0	95.5	28.7	66.8
奥内	100.0	23.1	76.9	—	0	—	97.9	56.1	41.8
油川	—	—	—	—	0	—	100.0	86.9	13.1
青森	—	—	—	—	0	—	100.0	99.5	0.5
造道	—	—	—	—	0	—	100.0	84.2	15.8
原別	—	34.4	—	—	0	—	100.0	88.4	11.6
野内	89.7	18.8	70.9	—	0	—	97.1	78.1	19.0
久栗坂	—	23.0	—	—	0	—	92.6	43.0	49.6

※「—」は計測データなしを示す。

(2) 保有枚数

①成貝・新貝

令和7年10月1日時点の成貝・新貝の保有枚数は、青森市漁協が12万枚、後潟漁協が8万枚となり、令和6年調査との比較でそれぞれ193万枚、120万枚減少した。

市全体としては、成貝・新貝の保有枚数は20万枚となり、令和6年調査時の333万枚との比較では313万枚減少した。

<成貝・新貝>※調査前年以前産

(単位:万枚)

項目	R7調査	R6調査	R7-R6	参考		
				R5調査	R4調査	R3調査
青森市漁協	12	205	△193	327	646	97
後潟漁協	8	128	△120	126	222	93
青森市計	20	333	△313	453	868	190

※保有枚数平年値(H27-R06の10年平均):406万枚

②稚貝

令和7年10月1日時点の稚貝の保有枚数は、青森市漁協が3,598万枚、後潟漁協が1,761万枚となり、令和6年調査との比較では、青森市漁協は2,309万枚、後潟漁協は7,723万枚減少した。

市全体としては、稚貝の保有枚数は5,359万枚となり、令和6年調査時の1億5,391万枚との比較では、1億32万枚減少した。

<稚貝>※調査年産

(単位:万枚)

項目	R7調査	R6調査	R7-R6	参考		
				R5調査	R4調査	R3調査
青森市漁協	3,598	5,907	△2,309	4,386	5,866	30,850
後潟漁協	1,761	9,484	△7,723	7,800	2,046	8,080
青森市計	5,359	15,391	△10,032	12,186	7,912	38,930

※保有枚数平年値(H27-R06の10年平均):30,389万枚

5 今後の指導内容

- 親貝となる成貝及び新貝の保有枚数が、目安となる枚数を大きく下回っているため、産卵前の出荷は控え、今後も継続してより一層の親貝確保に努めること。
- 新貝、稚貝ともに冬季波浪等のへい死を防ぐため、適切な玉付けにより養殖施設の安定化に努めること。